

# みつくら

平成30年12月15日 第278号  
 発行 大瀬川活性化会議  
 編集 「みつくら」編集委員会  
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2  
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

## 俳優の菅原さんが読売新聞に大きく紹介

俳優である菅原洋美(旦那花家)さんの記事が写真入りで夕刊読売新聞10月1日号に1ページ分の殆どを使って大きく掲載されていた。夕刊読売は東京や関西でのみでしか発行していないので、岩手ではお目にかかれないが、その夕刊読売新聞を取り寄せて読んだ内容は、東映京都撮影所の俳優が演じる「見える落語」化シリーズの中の「ぜんざい公社」を紹介していた。

落語「ぜんざい公社」は、三遊亭円朝が創作したもので、明治維新で失職し、しるこ屋を始めた武士が役所に付度しながら認可を取り付けた噺を現代風に演じた内容であった。今も変わらぬ役所の融通の利かなさや、役所に対する付度などを菅原洋美さんが演じ、その笑いが評判を呼んだ記事であった。

菅原洋美さんは現在、東映京都撮影所を本拠地として、森山陽介アクションチームに所属し、東映太秦映画村の芝居小屋「中村座」で「忍者ショー佐助」の常連者であると共に忍者の演技指導も行っていて、東映が製作している時代劇では多くに出演していて、最近では1月に世界ふしぎ発見「新発見の手紙が物語る! 龍馬暗殺の謎」の再現場面や、10月のBSジャパン「くノ一忍法螢火」でベッキーと共演し、11月17日の九州朝日放送では、「ハイヒールの悪魔」に出演している。

また、来年1月からの新番組がNHKBSプレミアムで放映される時代劇「小吉の女房」(1月11日金曜日から全8話20:00~)にも出演している。

## 各班で行われた収穫感謝祭

8区では、11月の月上旬に恒例となっている収穫感謝祭が開催された。この企画は班ごとに農班長が主催で行い、班内の親睦を深めている。

また春には、行政班長主催の歳祝い兼ねた花見も行っている。この班ごとに年2回の交流を行っているのは8区だけとなっている。

## 「戦没兵士と家族の物語」企画展開催中

この企画展は、8月に行った大瀬川歴史探訪講座の「大瀬川の戦死者を語り合う」で、講師を板垣忠雄さんをお願いする為、お宅を訪ねた折りに、妻の契子さんから「我が家には、戦死した義父の遺品が鍵の掛かったトランクに入っているようだが、鍵が無いので開けられない」と話されたのに由来する。「開けられない」となればなおさら見たいのが人の常。そこで戦死者の孫にあたる板垣純さんに(鍵を壊して)開けて貰い、中を覗いて見ると、戦時中の手紙や遺品がぎっしり詰まっていた。企画展では、忠雄さんの父、熊谷榮(木ノ宮家)が生まれるところから順に展示している。

熊谷榮は、大瀬川尋常小学校を卒業とともに好地村青年訓練所(当時の大瀬川は好地村に属して好地村大字大瀬川であった)で訓練を受けた後、20歳で1回目の海軍に入隊、軍艦八雲で海外を巡行した。7年の軍役で退役し、帰郷後は在郷軍人会で活動し、東竈家に婿に入る。

当時大陸では日本軍が連戦連勝中の昭和14年12月、結婚して名字が板垣榮に変わった頃に2回目の応召礼状が届き、再び海軍に入隊した。再招集は、軍としても教育の必要がなく、すぐに実践に就かせることができるからであった。再入隊後は、商船で軍事物資を運ぶなどの軍務であったが、昭和16年に大東亜戦争が始まり、旅順などの陸上戦闘にも加わったり、軍艦比叡での戦いなど、海陸にわたって戦った。

連戦連勝を続けていた日本軍も、次第に軍事物資が不足し、食糧難の只中であった昭和18年12月にアメリカ軍の爆撃に遭い、板垣榮は海の藻屑となって消えることになる。僅か35歳の若さであった。その間、妻や友人達との手紙は残っているだけでも63通あり、更に同じくらいの便数が妻から夫宛に出して(戦死後戻った手紙を除く)いるので、有に100通以上の手紙のやりとりがあった。特にも戦死してから半年間は、夫の戦死も知らずに出した妻の手紙がいじらしい。

今回の展示は180点に及んでいる。この企画展から分かった事は、軍事検閲の関係で軍事に関する事柄は書かれてはいないが、兵士の心情や、家族への思いやり、家族から知らせた大瀬川での出来事など、戦時中を知る貴重な資料となる発見となった。

北上平和記念展示館を初め、全国各地には多くの戦争に関する資料館があるが、これらは各地から集めたもので、同じ場所から同じ方々との定点からの視点で手紙のやりとりは、この企画展だけと思われる。12月23日まで展示しているので、ご覧下さい。

## 福祉バザー大瀬川から約200点

11月17日にビバハウスいしどりやで行われた市社協石鳥谷地区福祉バザーは、午前10時の開店と同時に、わんさと詰めかけた買い物客でごった返していた。

販売などの協力で大瀬川の方は熊谷秀夫さん、菅原靖夫さん、熊谷弘子さん、町田隆志(千鳥苑)さん達を見つけたが、

混雑していたので他にもいたかも知れない。

この福祉バザー開催に当たっては、大瀬川では事前に菅原静江さん、菅原時子さん、畠山義弘さん、菅原美津子さん、板垣公さん、板垣征子さん、熊谷弘子さん、熊谷京子(落合家、通称宇名木竈家)さん、藤原祐子さん、菅原千恵子さんが各戸へ出品の依頼や、回収に協力頂き、200点を収集している。

## 1部(小屋場屯所)の消防ポンプ自動車を更新

去る11月22日に市消防団第13分団第1部の消防ポンプ自動車が更新された。今までの消防ポンプ自動車は平成8年に更新されたもので2年ぶりの更新となる。

今回の消防ポンプ自動車配置式は、同日に花巻中央消防署内にある花巻市消防本部で行われ、花巻市長から小原勇孝市消防団長に引き渡しされ、更に消防団長から高橋昌昭第13分団長へと伝達されて、第1部に配置となった。

屯所の格納に先だって、山祇神社に赴き、直町宮司のもとで新しい消防ポンプ自動車の安全祈願を行った。祈願者は高橋分団長、板垣章郎第1部長、熊谷和紀第1部班長、板垣生栄団員、熊谷安久山祇神社責任役員で行った。ちなみに、ナンバーを団員で話し合い、分団名を入れた希望ナンバー「岩30さ1301」にして頂いた。

現在の第1部の団員は前述の他に板垣雄一班長、藤原美輝石鳥谷地域本部班長、畠山拓さん、熊谷信人さん、柳原紘樹さん、玉山敦さん、藤原誠さん、熊谷雄二さん、板垣昂さんが地域の防災に活躍している。なお、更新祝賀会は12月16日大瀬川振興センターを予定している。

## 市老連クラブ大会(文化祭)に大瀬川音頭を披露

花巻市老人クラブ連合会クラブ大会は、去る11月8日約600名が参加して花巻市文化会館大ホールで開かれ、大瀬川の老人クラブ三団体合同の13名で「大瀬川音頭」の踊りを披露した。踊りに先立ち、司会者から大瀬川音頭の謂われが紹介された。

踊りには、板垣禮子さんと板垣福子さんが揃いの半天や帯などを準備して臨み、参会者から拍手を浴びていた。大瀬川音頭は、平成13年に大瀬川公民館が地区民から公募(16編)したもので、平成14年に板垣忠夫さんが作詩、長男の板垣崇志さんが作曲を行い、武田宗夫選考委員長達が携わり選ばれた。

その後、平成16年には熊谷ワキさんが踊りの振り付けをし、同年秋の制作発表会では歌手の菊池マセが歌い、10日後にはIBCラジオの「民謡まわり舞台」で風見アナと菊池マセのトークで大瀬川音頭を披露し、県下全域に放送された。

## 11月号訂正です

かくやもち→かぐやもち 花巻北消防署員8名→3名でした

# みつくら

平成30年12月15日 第278号  
 発行 大瀬川活性化会議  
 編集 「みつくら」編集委員会  
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2  
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

## あじさいの会で安否確認電話の講話

あじさいの会では、11月14日のふれあい昼食会に先だつて、市社会福祉協議会の清水光樹介護支援専門員から「一人暮らしの安否確認について」の講話を聞いた。実際に詳しく聞くのは初めてなので内容を紹介したい。一人暮らしの方の毎日の安否確認は支援事業とのこと。

いつから始めたのかは不詳だが、平成24年には大瀬川で利用されていた。利用方法は、一人暮らしの方は毎日、午前中にあらかじめ決められた電話番号(社協支援事業の電話)に掛ける。すると電子音で「どうしました?1~4までの該当する番号を押して下さい」と問われる。1は元気、2は少し元気、3は身体の調子が悪い、4は話したい事がある。これらのいずれかの番号を押すと、3と4の場合は担当者に繋がる仕組みになっている。

午前中に電話を掛けない場合は、支援担当者から「どうしました?」と電話で問い合わせが来て、それでも反応が無い場合は直接そのお宅を訪ねて安否を確認しているという有り難い仕組みである。

通話料は別途支援事業あてに支払うとの事であった。

## 大澤家の墓案内板を設置

大澤竹次郎顕彰会(熊谷善志会長)では、11月19日に「大澤家の墓」案内板を設置した。場所は、高橋立見さん宅南側の墓地で、大瀬川活性化会議の公募事業として採択された。案内板の文面は「大澤家の墓。大澤家は士族の出で、県北の沿岸から大瀬川に移住したと言われていました。いつから大瀬川に住んだかは分かりませんが、享年年間(1730)の記録があります。

この大澤家からは、大澤廣司が大澤医院を開いたり、獣医学の祖と言われた大澤竹次郎の生家でもあり、菩提寺は花巻市里川口にある宗青寺です。(大澤家の墓は左側の半分です) 平成30年11月 大澤竹次郎顕彰会」と記している。

## 大瀬川で「ブルリの杜」起工式

県内初となる岩手県自閉症協会(熊谷和彦、熊本葉一両代表理事)の生活介護施設「ブルリの杜」起工式が、12月3日に旧大飼町家の作業場で30名が出席して行われた。

最初に直町宮司によって神事が行われ、その後主催者である熊本葉一代表理事から「いままでいろいろ準備をしてこの日を迎える事が出来ました。この施設が、地域の方々のご支援やご協力を得ながら、障がい者が生き甲斐を見つけられる生活の場になるよう願って止みません」と挨拶された。

続いて上田花巻市長(代理永田有紀子市障がい福祉課長)が「この施設から障がい者が、創作活動や協働作業を通して地域に融け込み、自立していくと思います」と祝辞を述べられた。熊谷秀夫大瀬川活性化会議会長からは「県内で初となる自閉症の生活介護施設を大瀬川に選んで頂いた事に感謝しています。大瀬川でも人口減少が進み空き家も多い現在、その空き家は大瀬川の方でもありますので、地域の方々と施設の方々の交流を進めて下さると思っています」と祝辞があった。

他の来賓者は県の支援担当者や、菅原昇第8区長、地権者の田村衡賞さん、近隣者の菅原弘雄さん、熊谷茂さん、施工業者などであった。「ブルリの杜」は、平成31年4月に開所予定で、障がい者定員20名で、創作活動の作品や、農業生産・販売を目指している。

## 表彰

第10回西部地区老人クラブ連合会軽スポーツ大会	
団体総合	3位 大瀬川第一老人クラブ
ゲートボールの部	2位 大瀬川合同チーム
スティックボールの部	優勝 大瀬川高齢者クラブ
	3位 大瀬川中央長寿会、
グランドゴルフの部	3位 大瀬川中央長寿会
輪投げ	優勝 大瀬川第一老人クラブ
	2位 大瀬川中央長寿会

第45回大瀬川親子卓球大会	
優勝 低学年(男子)	辻村大雅さん(女子) 菅原瑠香さん
2位	熊谷朋久さん 熊谷音々さん
3位	高橋佳汰さん 玉山優奈さん
優勝 高学年(女子)	板垣涼花さん
2位	菅原英海さん
3位	高橋瑞希さん

## みんなで歌って、収穫感謝祭

大瀬川第一老人クラブ(菅原敬夫会長)では、11月17日に第9区自治公民館で36名が参加して収穫感謝祭を開催した。今年は趣向を変えて2部構成にして、第一部はハミングバードの演奏に合わせて皆で懐かしい歌う会にした。ハミングバードは3人のメンバーで構成するバンドで、アコーディオンは中野武夫さん(石鳥谷町)、キーボードは前田ヒロ子さん(水沢)、ドラムは馬峰豊美さん(和賀町)で各地を活動し

ている。菅原新一郎さんが、中野さんの知り合いで今回の感謝祭に来て頂いた。オープニングの「村祭り」で始まり、懐かしの歌から7曲を歌い、途中に中野さんから歌の出来た経緯の説明もあった。続いて、「島のブルース」や「お座敷小唄」ではクラブ員の踊りも出た。最後には昭和の歌謡曲を演奏に合わせて皆が声を出して楽しく歌った。第二部は収穫感謝祭となり、菅原会長から「好天で秋仕舞いも順調に進んでいる。今日は、第一部で今までにないくらいの声を出したと思う。また、冬の間は体力づくりをして行きたい」と挨拶があった。畠山正農家組合長の乾杯で、日頃の慰労と懇親を深めた。テーブルには女性会員が季節の食材を使った手作りの料理が並び和やかな感謝祭となった。

## 地域の力を披露した大瀬川地区文化祭

11月10日から11日まで振興センターと改善センターを会場に大瀬川地区文化祭が行なわれた。

前日の午後に、約30名で展示品の搬入や展示、ステージの設置など会場準備を行った。展示部門には保育園児や小・中学生、一般から図画や書道33点、婦人会20点、写真クラブ22点、手芸クラブ133点、ハーバリウム・干支作り教室から40点、地区民作品57点のほか職人技が光る菅野祐二さんの「葉簞笥」も出品された。毎年協力頂いている千鳥苑からは、毛糸を使ったぬいぐるみやクリスマスリースなど78点の展覧があった。お茶会も昨年好評だったので、70人分を用意して美味しいお茶が振る舞われた。

舞台発表部門では大瀬川神楽保存会が「八幡舞」を披露。くずまる民話クラブは「屏風」「山寺の小僧」を語り、エコーくずまるは「旅人よ」「心の瞳」など4曲を11名が澄み切った声で歌った。サブライズで熊谷秀夫会長が着物姿で新舞踊「祝い船」を踊り、奥さんが「雪椿」を華麗に舞い観客から大きな喝采を浴びた。最後は、ZK'sがベンチャーズの名曲や「祭り」など6曲をいつにも増して気合が入った演奏で披露した。締め餅まきにはいつの間にか人数が倍になっており、餅30キロとお菓子が撒かれると我先と拾い終了した。

## 市民芸術祭石鳥谷会場に出品

50周年を記念して10月20日から2日間にわたって開かれた市民芸術祭(石鳥谷会場)は、大瀬川からは、現代美術家協会クリエイト賞に輝いた板垣弘清さんの写真「霜晨の湖畔」、書道では熊谷静香さんの「仲雄王詩」、随筆では菅原得之さん、機織りでは板垣福子さん、板垣あきさん、図画では菅原永織さん(向竈家)、菅原瑠生さん、菅原瑠香さん(何れも新山家)、板垣涼花さん(甘木竈家)、菅原英海さん(清五郎竈家)、習字では高橋咲季さん(新田家)の方々が出品した。